

第3回 富山湾における『うねり性波浪』

対策検討技術委員会 資料

被災施設の対応（万葉ふ頭緑地）

平成20年6月19日

富 山 県

1. 被災状況

護岸の越波量及び越波時間が長かったため、緑地内に大量の海水が流れ込んだことから、緑地が洗掘し、大きな被害を受けたと考えられる。

また、緑地背後の港湾関連用地へも浸水が広がった。



2. 復旧の方針

- ① 再度災防止の観点から、被災波（観測地点 4.22m, 14.2s）を考慮する。
- ② ブシネスク方程式による波浪変形計算により、設計地点における被災波（設計波）を算出する。
- ③ 越波で流入した海水を排水する。
- ④ 許容越波量を超える範囲を強化する。

3. 復旧の方法

- ① 被災波でも越波量を抑えるために、護岸背後を嵩上げするとともに、許容越波量を超える範囲は、コンクリート舗装で強化する。あわせて、コンクリート舗装は海側へ勾配をつけ、すみやかに排水できるようにする。
- ② 許容越波量以下の流入海水分は、水路で排水する。